

9月韓国

廃バッテリー 対日輸入半減

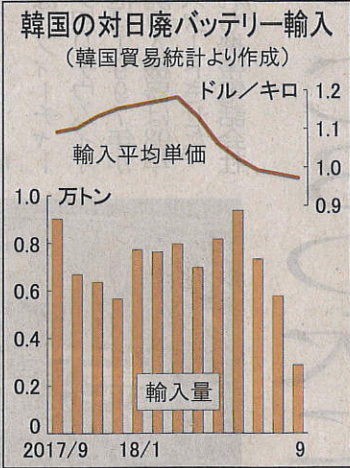
2868トン、7年ぶり低水準

韓国の日本からの廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）輸入が減少した。韓国関税庁がこのほど発表した9月の貿易統計によると、対日輸入量は前月比50・3%減の2868トンと3カ月連続で大幅ダウンとなり、約7年ぶりの低水準。法改正によって更新できなくなった日本側の輸出ライセンスがいよいよ切れ、韓国側の輸入統計の数字にも表れてきた。

許可失効の影響顕著に

鉛リサイクル原料の廃バッテリーは、二次精錬業が盛んな韓国が大量に調達していたが、昨夏から日本側の輸出認可承認が全面ストップ。1年期限の輸出ライセンスが順次切

られてきたため、6月の9371トンの直近ピークから韓国の対日輸入量は約3割まで減少した。9月輸入は2011年11月の2083トン以来の低水準。先月末に発表された



日本の財務省貿易統計でも、8月の韓国向け廃バッテリー輸出は前月比56・7%減の30

韓国9月の廃バッテリー総輸入量は3万

52トンとすでに半減していた。ここにきて先に発表される韓国統計でも大幅減となり、4-5月に駆け込みによって上向く局面もあった韓国向け輸出は、ようやく収束に向かいつつある。

輸出平均単価は前月比キロ0・01が安の0・97で、6カ月連続の前月比ダウンとなった。円換算では約110円。9月の日本国内の廃バッテリー相場は70円台後半から80円台前半まで続落していたため、輸出単価と比べると大きな値差があった。残るライセンスの枠内では高値買いが行われていたと考えられる。

3109トン。対日輸入減が響いて前月から7・3%減少し、15年11月の2万9913トン以来の少なさだった。主な輸入相手国別の内訳は、米国1万1688トン、アラブ首長国連邦(UAE)5106トン、日本2868トン、シンガポール1902トン、ニュージーランド1635トン、ドミニカ共和国1531トン、カナダ1201トン、トーゴ121トン、イエメン1096トン。対米輸入は3カ月連続で増え、4カ月ぶりに1万トンを超えた。